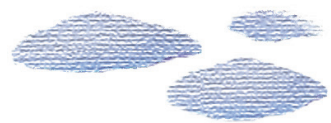




WHAT'S
Bunka

WHAT'S Bunka by KAKAMIGAHARA MIRAI CULTURE FOUNDATION.

No. 03
TAKE FREE



まちの風景。

編集部が、まちを歩いて「面白いなあ」と感じた風景をご紹介しますコーナー。2回の連載を通し、

まちの皆さんとの関わりシロを増やし、様々な文化が反映される機関紙を制作したいと思うようになり、今回は初の試みとして「写真募集」を行いました。さあ、どんな風景が広がるのでしょうか。

（撮影場所：那加地区商店街・学びの森・市民公園・六軒通り）



カワナ『覗きたくなった〇』 那加地区商店街



アソジ『によきによき看板』 六軒通り



ayaka『パンがすぎ 公園がすぎ』 学びの森



ながなわけんた『ALLURING』 学びの森

私の文化。

カカブン（財団の略称）スタッフが毎号交代で“文化”について語るコーナー。
今回は、各務原市美術館や事務を担当している廣瀬が担当です。ちなみに、同じ苗字のグループ長・廣瀬の「私の文化」はNo.2で紹介しています。ぜひ、2つセットで読んでみてください！表舞台に立つ機会が少ないカカブンスタッフの雰囲気、このコーナーから少しでもお届けできたら幸いです！（夜の飲食店に行くと、カカブンスタッフと遭遇するかもしれませんね笑）個性溢れる2年目のカカブンもよろしくお願いします！

私にとって文化とは「お酒」だと考えています。

最近ではコロナ禍の影響もあり、インターネットやSNSを通じてのコミュニケーションや交流が多くなりましたが、私は直接顔を合わせてお酒を飲むことで、多くの方とつながってきました。

お酒を飲むことで、リラックスし、会話を楽しむことで、話題を広げたり、自分の考えを述べたりする機会が増えます。これにより周囲とのコミュニケーションをより楽しむことができます。時には、偶然居合わせた人とも交流することができます。こともあり、新しいつながりや、発見をすることができます。

また、お酒は単なる飲み物ではなく、日常生活や祝祭行事など、多くの場面に登場し、人々のコミュニケーションツールの一部になっています。

このように、私にとって「お酒」は人と人とのつながりに深い関連性があり、飲むことを目的としているのではなく、人との交流を深める「文化」の1つだと考えています。ただ、健康リスクなど悪い影響を与える面もあるので、適度な飲酒に気を付けながら、お酒を通じたつながりを楽しみたいものです。

乾杯。

文・廣瀬 行志

INFO.: 企画制作 / 発行：かかみがはら未来文化財団

発行日：2023年6月17日

アートディレクション：北住尚己（株式会社エコムクリエーション）

デザイン：本瀬玄真（株式会社エコムクリエーション）

テキスト制作：河合ほのか（かかみがはら未来文化財団）

写真協力：高田 沙織（コトバ de ストレッチ第二弾テクテク・コトバ）
KAKAMIGAHARA STAND スタッフ（WHAT'S BUNKA 展）

印刷：株式会社イナバ印刷社

スペシャルサンクス：各務原市民のみなさま



Twitter



Instagram



かかみがはら
未来文化財団
KAKAMIGAHARA MIRAI
CULTURE FOUNDATION

MEMO:

『WHAT'S BUNKA』を制作していると、とても多くのヒト・モノと出会っていると改めて感じます。人生の中では一瞬の出来事ですが、もしかすると、今後を左右する大きな出会いになるかもと思うと、1つ1つの出会いを大切にしたいという気持ちになります。一歩を踏み出すことは、勇気が必要ですが、少し前に進んでみることで、目の前の景色が変わるかもしれません。

2023.2.24~3.1
開催!

WHAT'S

Bunka展

かかみがはら未来文化財団設立1周年企画

「あなたにとって文化とは何ですか？」

「か？」と問われた時、あなたは何を思い浮かべますか？

クラシック、楽器演奏、アート、といった“ザ・芸術”を思い浮かべる方もいれば、お気に入りのカフェに行く、晩酌を楽しむ、猫と過ごすといった日々の“暮らし”も文化と捉えることもできます。文化というエッセンスが加わることで、

何気ない日常に楽しみが広がり、住居年齢性別も関係なく誰もが自由に持てるのが魅力の1つ。

各務原は多様な文化を楽しむことができます。そんなまちを目指し、2022年2月に設立し、音楽・文芸・歌舞伎・アート・暮らしなど様々な文化体験ができる企画を行っています。設立1周年となる節目に「かかみがはら未来文化財団」とはどういう団体なのか？を、まちの皆さんに知ってもらいたいという想いから、学びの森にあるKAKAMIGAHARA STANDにて「WHAT'S BUNKA展」を開催しました。

▼KAKAMIGAHARA STANDの非公式キャラクター「蒸しパンくん」と財団ロゴのイラスト。展示の打ち合わせを行った際に描き起こされた、快く承諾いただきました。KAKAMIGAHARA STANDのスタッフが描き起こしたイラストを制作しています。

①文化を4カテゴリーごとに紹介

文化財団では、4つの目的「ふれる」「つたえる」「はぐくむ」「いかす」ごとに、文化の潜在的な魅力を発信し、技術に磨きをかける場の創出時にはまちの皆さんのアイデアを実現したり、多方面の視点を取り入れた企画を展開しています。今回は、2022年の事業をパネルで紹介し、また、企画時に制作したインスタレーションやZINEなどの作品も再登場しました。

②みんなの文化をシェアしよう

タイトルにちなんで「あなたにとって文化とは？」の質問コーナーを設置しました。正直なところ、質問に答えてくれる人はいるのだろうか？と不安でしたが、最終日に紙で一杯になったパネルは、まるで1つの「文化」が生まれたようで、財団の財産となる企画となりました。

③学びの森コンサート

展示期間中の2月25日に、学びの森にて各務原市登録アーティストの大谷泰史さん・安藤風季さん・コトリネさん、桜丘中学校吹奏楽部の皆さんによるコンサートを開催しました。通りすがりの観客や、演奏後に楽器に触れたり、公園で穏やかな時間を過ごすことができました。

④コラボ蒸しパン登場！

KAKAMIGAHARA STANDの非公式キャラクター「蒸しパンくん」と財団の公式ロゴのコラボ蒸しパンを販売していただきました。文化のカタチが1つではないように、財団のロゴも様々なカタチに変化します。さて次は、どんなカタチで登場するのか楽しみです！



■「WHAT'S BUNKA展」を通じて
今回は有難いことに、産業文化センターのエントランスホールでも展示の機会をいただき「巡回展」として、さらに多くの方にご覧いただきました。新しい出会いや、つながりの大切さを改めて感じることもできた「WHAT'S BUNKA展」。
2023年4月からは「公益財団法人かかみがはら未来文化財団」に移行し、さらにパワーアップしていきます。これからの文化財団もどうぞ宜しくお願いします！

思い出を参加者みんなで分かち合ったことです。

▼「文化」とは？

くまださん「くうねるたるるはたらくという必要最低限の生活や日常に、おもしろみと色みを増やすことのできる魔法だと思います！」

▼「文化」とは？

すずきさん「日々の暮らしをおもしろくするもの。『デクテク・コトバ』浅野屋・小山育子さん

▼「文化」とは？

短歌を店頭で展示して感じたこと。
「浅野屋の名物のカッサンドを、短歌でわかりやすく表現されてとても感動しました。短歌をみて商品を買ってくださるお客様ばかりで、とても嬉しかったです。」



▼「文化」とは？

くまださん「野口さんに批評してもらった時に言葉のクセをズバリと言われてビックリしました。自分が感じた、その時の光景を伝える難しさと楽しさを改めて感じました。」

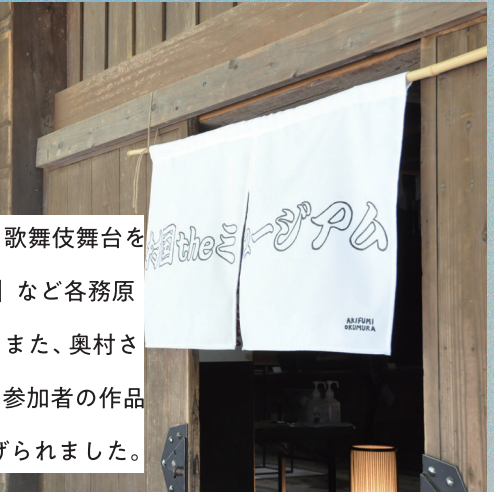
▼「文化」とは？

「人と人が関わりあい、コミュニケーションを大切にすること」



▲左・澤田摩耶さん（インスタレーションデザイン） 右・小山育子さん（浅野屋）

歌舞伎舞台「村国座」の活用について



2022年10月22日-11月6日 「奥村晃史展 村国 theミュージアム」

各務原市在住の画家・奥村晃史さんの個展を開催しました。歌舞伎舞台をミュージアム（博物館）に見立て、「廻り舞台」や「飛行機」など各務原市の歴史や産業遺産をイメージしたオブジェや作品を制作。また、奥村さんの作品を描き写す「写動物」のワークショップを開催し、参加者の作品も村国座に飾られるなど唯一無二のミュージアムが創り上げられました。

2022年11月19日・20日 「歌舞伎を観るということ」

ゲストに小説・音楽など幅広い分野で活動する、いとうせいこうさんと町田康さん、ファシリテーターに情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] の小林昌廣教授を迎え、新しい「歌舞伎」の見方や楽しみ方を提案するトークイベントを開催しました。テーマは「私と古典」、歌舞伎を音楽劇と捉えたり、自身の価値観を問直すことで文化の面白さを探るなど、ゲストのフィルターを通して「歌舞伎」の魅力や面白さを知る時間となりました。



「文化をいかす」事業の一環として、現存する歴史的建物を活かし、次世代へ繋いでいくため、古今の文化を融合させた取り組みを行っています。今回は、2022年秋に開催した国指定重要有形民俗文化財「村国座」での活動を紹介いたします。

令和4年度文芸企画

「コトバ de ストレッチ」

従来の枠にとらわれない“文芸”の魅力を発信するため、2022年は、**歌人・野口あや子さん**をお招きし、ことばの楽しさや短歌のもつ魅力を体験する「コトバ de ストレッチ」を開催。コトバにふれて遊ぶ**「ベタベタ・コトバ」**、まちの魅力をインスタレーション作品として表現し、まちの各所に展示をした**「デクテク・コトバ」**の2つの企画から短歌の新たな一面を探りました。

さあ、おおきくいきすってあたまたつてつべんからつまさきまでことばをいきわたらせましょう



▲短歌の解説をする野口さん

▼「文化」とは？

私たちがもともと持ち合わせている、「人生を彩る力」。白いご飯を食べようとすると、自然とお漬物とお味噌汁を合わせたりになります。文化、と力まなくても私たちは「人生を彩る力」を自然と持ち合わせているような気がします。さて、あなたの今朝に似合う一曲はなんですか。カバンに一冊本を入れるなら、なんにしましょうか。どんな靴を履いて出かけましょうか。

▼「文化」とは？

くまださん「野口さんに批評してもらった時に言葉のクセをズバリと言われてビックリしました。自分が感じた、その時の光景を伝える難しさと楽しさを改めて感じました。」

▼「文化」とは？

「人と人が関わりあい、コミュニケーションを大切にすること」

くまださん「野口さんに批評してもらった時に言葉のクセをズバリと言われてビックリしました。自分が感じた、その時の光景を伝える難しさと楽しさを改めて感じました。」

くまださん「野口さんに批評してもらった時に言葉のクセをズバリと言われてビックリしました。自分が感じた、その時の光景を伝える難しさと楽しさを改めて感じました。」

くまださん「野口さんに批評してもらった時に言葉のクセをズバリと言われてビックリしました。自分が感じた、その時の光景を伝える難しさと楽しさを改めて感じました。」

第5期

アカデミー・ジュニア・アーツ・アカデミー

▼練習で印象に残っていること
まきわね「先生の話が面白く、うまい事にこだわ



▲上段左から4人目・めぐみさん/上段右から2人目・まきわねさん

▼「文化」とは？
「楽しいことを、誰かとシェアしてもっと楽しくするための、共通言語」のようなもの。それが日常に溶け込むことでたくさんの方の心が、かき、成熟され、継承されていく尊さがあります。私は俳句に触れ、日常をおもしろがります。他者とシェアすることで、価値観を広げていく楽しさ・おもしろさを感じています。

▼「俳句」の楽しみ方について
私自身、俳句をはじめから日常を捉える解像度が上がり、なんでもない出来事がより一層愛おしくなりました。俳句は「つくる」行為はもちろんですが、「読む」「鑑賞する」だけでもとても楽しいもの。(2023年の文芸企画について) いろいろな形で俳句に触れることを楽しめるワークショップになればいいなと思います。

▼「文化」とは？
「大きな舞台に立つことに慣れ、恥ずかしがらずに歌えるようになりました。」

▼コンサートで印象に残っていること
「オーケストラと合わせて歌うことが楽しく、練習してきたことが本番で発揮できてよかったです。」

▼「文化」とは？
「観客の顔が見えると嬉しく「またやりたい！」と感じ、オーケストラの演奏を見て「かっこいい、一緒にステージに立ちたい！」と思いました。」

▼「文化」とは？
「昔から続いてきたものだと思います。」

めぐみ「各国の違いがありますが、日本だと着物、美濃焼、お皿作りなど、歌もダンスも昔からの海外の文化ですよーね！」